金沢ウォッチング

金沢には、よき伝統と文化を残すまちがたくさんあります。恵まれた環境にある市民は、その大切さをついついおろそかにしているようです。外にいて金沢を愛し、その魅力を知る人からのメッセージをお聞き下さい。

中村良夫氏

東京工業大学教授

都市景観を考えた場合、一つに個性という問題が出てまいります。都市に景観のプランを立てる時は、金沢らしいものを作らなければいけないということを念頭に置かなければなりません。個性という問題は非常に難しいもので、それぞれの主張を放っておけば景観も調和がとれませんし、とはいえあまり共通なことを言いますと、どこの街も同じになってしまうので、何処かで折り合いをつけなくてはなりません。

都市の個性ということに関し、ある場所で議論しているとき、ある先生が、盆踊りの例を出されました。節は少し違うけれど、大体基調というものは揃っている。都市の個性もそういう基調、自然をベースにして、そこに由緒や人間の生き生きとした生活を組み入れていけば良い――と。私もそう思います。街の基調というものは変わらない。そこから変奏曲を演じれば良いというふうに思います。

金沢の場合、自然という日本共通のものをベースにしながら、金沢のもつ特徴ある自然、起伏に富んだ地形を生かした景観づくりをすることです。

（「景観シンポジウム'91」基調講演から抜粋）

尾崎真理さん

カラーコーディネーター

金沢市の「景観形成基本計画」の最初に「豊かな自然や美しく風格ある街並みは、市民共有の財産である」と書かれています。まさに財産なのです。その財産を日本のいたるところでなくしてしまったのが現状です。これらの財産を残していくことが都市の活力を一層高めるために重要な役割を果たすということを市の行政の方も言っておりました。また、歴史的な誇りを大切にするためとも書かれていました。私はその誇りをもたない都市は好きでありません。現在の日本は、日本的かつ歴史的な誇りをどこかに置き忘れてしまっています。金沢に来て、そこに住む一人ひとりが誇りをもっていることを街のあちこちで感じました。それは食べ物の器などにもあらわれており、非常にうれしく思いました。オーバーな言い方かもしれませんが、パリの市民に似ていると感じました。

（「都市景観フォーラム'92」基調講演から抜粋）

磯村尚徳氏

外交評論家

マクロコスモスとは大自然、大宇宙のことを意味します。これに対しミクロコスモスとは自分の家庭、自分を中心とした小さな世界です。都市の景観とはおそらくその中間のメゾコスモスに属すると思います。

パリのような西欧的な街の景観の第一の特色は、パノラミックな上からの視線で見て、統一と均整と形式と正面性が見事に貫かれていることです。しかも同時に市民の視線から見ての美しさも兼ね備えています。

金沢の場合は、美しい景観の形成に関する条例や景観形成の基本計画をきちんと作られて、少なくとも行政に景観形成の意思は十分あると思います。市民の意識も高いに違いないと思います。一つ足りないものがあるとすれば、メゾコスモスといった全体のバランスです。柳の枝が少し垂れ過ぎて街が汚くなっているというような、本当にわい小化された小さな美を求めるのではなく、白山の上から街全体を眺めれば、世界一の街であってほしいと、そのように思います。

（「景観シンポジウム'93」基調講演から抜粋）

風景を綴る

「長町の川は犀川の辰巳用水から引かれ、市街の中央をまがりくねって走り、水量は豊満で、川床は美いためにせせらぎは美しい。用水は北加賀一帯の田地に引かれていて、古い武家屋敷の築地の石垣際にも、幾つかの水車小屋の間を抜け、そして流れは下町から田園にぬけていく。……」これは室生犀星の随筆「雨が屋根の下」の一節である。ここには用水が都市の中心から郷びた周縁の田園地帯へと流れていく様子が描かれている。これからものかるように都市の風景は、一枚の写真を見るように眺められるばかりでなく、一場面の景観が関連のある他の場所を同時に想起させているのである。複数の場所における景観体験が共通の景観要素である川によって互いに関連づけられ、統合されて、風景の体験をより味わい深くしているともいえる。これを文章にそなえて言えば、「言葉」が集まって「文」となり、「文」が集まって「物語」ができるように、風景も幾つかの「景物」がまとまって「一場面の景」となり、「一場面の景」が脈絡を持って構成されるとき、「風景の物語」が完成するのである。趣のある景が打ちはめられた金沢の町こそ、それらを結びつける共通要素や関連する軸を探し出して編集すれば、その趣も一層際きを増すに違いない。鏡花の文章にあるように連続する川や用水は、それに沿うものを結びつけるし、新しいものと古いものという対立する要素を極的に対比することによって、それぞれの趣をより高めることができる。例えば、香林坊から兼六園へいたる広坂通りの対比はどうだろう。現代建築の建ち並ぶ香林坊から明治の建築である旧四高（現近代文学館）を過ぎると、大正年間に建築された県庁舎があり、その奥に兼六園がある。道を歩くことによって時代の変化を体験しているのである。ここで示した連続や対比は風景の脈絡と考えてもよいであろう。この他にも、卯辰山などからの「眺望」、古い家並みや寺院などの「集積」、寺町台や小立野台における地形的特徴がもたらした「縁」的空間体験、城を核とする、中心と周縁」的都市構造などは、景観的な脈絡と捉えることができる。金沢が武家屋敷や茶屋街などの断片的な景観のコラージュとしてイメージされるばかりでなく、場所ごとの景観を脈絡をつけて綴り、風景の物語がたくさんある町に計画することは、金沢の都市イメージによりふくらみと豊かさを与えることになろう。

安島　博幸
（やすじま　ひろゆき）
金沢工業大学建築学科教授
公職●金沢市のまちづくり専門員、都市景観審議会・建物部会・用水みちすじ部会・計画部会委員
著書●「街路の景観設計」技報堂出版、「アメニティ都市への途」ぎょうせい

私

桜橋。遠くに残雪の峰を見、そこを流れる犀川は、ようやく明るくなりかけた空を映す。まだ冷たい風に吹かれて橋の上に佇んでいると、気持ちの整理がついてくる。

私は仕事柄生徒との別れと出発ちをこの場所でいくつもかかわってきました。

橋は別れと出発、そして出会いが似合う。金沢は水の街、そこにかかる橋は大事にしていきたいですね。

（金沢在住・三〇代・女性・塾講師）

以

前新聞で読んだ記事が気にかかりました。そこには、歩道に駐車するタクシーが多く、これを防ぐ為に石柱を建てたのですが、いつの間にか折られていたと書いてあり、折ってしまった道徳心のなさに、より気が滅入ります。

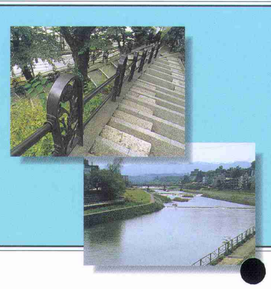
気がつけば○○注意、○○厳禁の立て看板、規制の為の柵などが町中になんと多いことか。

中には、「コラッ、○○するな」などと、読んでも不快になる看板もあって、景観以前の問題を感じます。

同じ規制でも、茶人は、関守石と美しささえ感じる表現をします。

茶道の盛んといわれる金沢です。茶人のゆかりさが景観に見えたらと願います。

（金沢在住・四〇代・男性・会社員）



私

は金沢に勤務しています。金沢は多くの文豪を輩出した町でもあり、そのゆかりの場所所在するのみかで文化のまちなみが展もあるわけですが、それは点々と開していないように感じます。

金沢は最近、近代化しており、その上で和洋が混在するのも分かりますが、それが平然と隣り合っているのが気になります。個々に保存、創造するのはやめて、もっと調和のとれた景観をつくって下さい。金沢のまちの将来あるべき姿は、伝統文化都市なのか、近代都市なのか。金沢らしさをどこに求めるのか。最近、金沢のまちを友人に説明するのに困っています。

（金沢勤務・二〇代・女性・会社員）

わたしのかなざわ

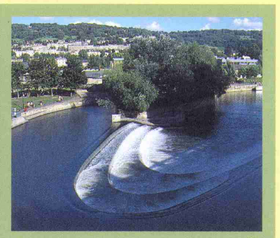
Beautiful scenery Breath taking scenery

外国都市に学ぶ

美しいもの、趣のあるものは各国共通して、人々の心に触れる…。ここに外国で見つけた素敵な眺めを集めてみました。水や屋根や明かり……まちのいろの競演です。そこから金沢にふさわしい景観をイメージしてみて下さい。

バースのカスケード（イギリス）

イギリスの古都バースは、ローマ時代に建設された温泉保養地で一八世紀のハノーバー朝風に造られた歴史的な建築物や橋などが残っている。町の中央をうねりながら貫流するエイボン川に設けられた水位調節のための堰はこの歴史的な環境に調和することが求められた。この期待に応えて設計された馬蹄形の堰は、自然と歴史的遺産の世界的な保護団体であるナショナルトラストから表彰を受け、いまではこの場所に欠かせない風景の要素になっている。



サンポールの看板（フランス）

陽射しの明るい南フランスの海岸から、山手に車を走らせるとやがて周囲をぐるりと城壁で囲んだ郷びた中世風の山上城郭都市が現れる。車が入れない町の中へはトンネルのような城門をくぐり抜ける。微妙に折れ曲がる狭い街路は、人々に親しげな表情をみせている。この町にはたくさんの芸術家が住み、アトリエやギャラリーを構えている。雰囲気に溶け込みながら主張するギャラリーの看板は彼らの作品でもある。

ラベッロの広場（イタリア）

ソレント半島の海岸からほど近い山麓に、このラベッロの町がある。山麓の曲がりくねった坂道を登ると、町の中心である眺めの良い広場に出る。広場といっても、道が部分的に拡がったような形をしていて、大樹が緑陰をつくり、広場の一角を占領するカフェテラスでは、人々が楽しげに語らっている。金沢でいえば広見といったところ。道と広場を分けるのは、季節の花が植え込まれた地域の特産品でもある陶器の鉢である。

フィレンツェの屋根（イタリア）

ルネッサンス発祥の地フィレンツェの町のランドマークといえば、キリスト教建築を代表するサンタマリア大聖堂である。この巨大な聖堂に付属する高さ八二メートルもある鐘楼へは、はてしなく長い階段があり疲れたころようやく頂上にたどり着く。頂上からはフィレンツェの町の全景が眺められ、大聖堂のクーポラ越しに、どこまでも続く古色を帯びた赤い屋根瓦のパノラマが圧倒的な力で眼に迫る。

ベニスの裏通り（イタリア）

水の都ベニスは光と闇の対比が魅力的な町である。大きな商館が建ち並ぶ大運河沿いは、明るく照明され都市軸を作る。一方、迷路のように入り組む裏通りは、小さな広場の隅や辻に取り付けられた街灯によって、そこだけが仄かに照らだされている。照明をすることによって闇が強調され、人を誘い込むような街角のたたずまいと情感に満ちた暗闇の対比が生まれるのである。

ハイデルベルグの川と町並み（ドイツ）

ハイデルベルグ大学のある城跡に対面する斜面に設けられた散策路の途中にある展望台からは、ハイデルベルグの町が一望できる。眼下には、ネッカー川が流れ、町への入り口となる橋が架かり、その背後には、くすんだ赤い屋根瓦の町並みが広がっている。この写真の撮影地点を卯辰山の山麓とし、下に広がる甍の波を東の茶屋街一帯に、城を金沢城に、川を浅野川に、橋を浅野川大橋に見立てて、みるのも一興であろう。

景観Q&A

伝統環境保存区域、近代的都市景観創出区域とはどんな区域ですか？

Q1 金沢市の景観条例で定められている「伝統環境保存区域」「近代的都市景観創出区域」とはどのような区域ですか？

A1 「金沢市における伝統環境の保存および美しい景観の形成に関する条例（景観条例）」の中で、自然景観や歴史的建造物が多く残り、金沢らしい良好な環境を形成している区域を「伝統環境保存区域」、伝統環境保存区域との調和を考えながら、「近代的都市景観機能の整備を図る区域を「近代的都市景観創出区域」と位置付けています。

平成四年八月に、旧市街地、浅野川・犀川以北筋、卯辰山などの丘陵地を中心に伝統環境保存区域、約一五〇〇ヘクタールを、駅、武蔵ヶ辻、香林坊といった都市軸を中心に近代的都市景観創出区域、約一五〇ヘクタールを指定しました。区域の中で建築などをするときは、事前の届け出が必要です。市では必要に応じ助言などを行い、無秩序なビル建築や開発、広告物の氾濫など景観を阻害する行為を未然に防ぐとともに、整った美しい街並みをつくることを目指しています。

助成制度はあるのですか？

Q2 家を建てるときなど、景観に配慮した場合、助成制度があると聞きましたが、どのようなものですか？

A2 下の表の助成制度があります。その他、茶屋街の修景補助や寺院の土塀、山門の修復補助があります。詳しくはまちなみ対策課までお問合せください。

景観形成を進めるための

補助制度のあらまし

事業の種類	対象事業	補助率・限度額	対象区域
民間建築物修景事業	個人の方が新築・改築等の際、積極的に景観に配慮した計画について、その設計経費の一部を補助します。	設計費の10% 10万円	伝統環境保存区域 近代的都市景観創出区域
生け垣整備事業	道路などに面した部分の生け垣化のための土木・植栽工事費を補助します。	90% 50万円	伝統環境保存区域 近代的都市景観創出区域
外構修景事業	道路などに面した部分で、街並みに調和した板塀・土塀などの修景工事費を補助します。	70% 50万円	伝統環境保存区域 近代的都市景観創出区域
駐車場修景事業	駐車場周囲の生け垣・板塀・土塀・門扉などの整備による修景工事費を補助します。	70% 100万円	伝統環境保存区域 近代的都市景観創出区域
擁壁修景事業	傾斜地での宅地造成に必要な土留め擁壁の修景工事費（化粧型枠、化粧ブロックなど）を補助します。	90% 50万円	伝統環境保存区域 近代的都市景観創出区域
屋外広告物撤去事業	老朽化した広告看板などを撤去し、景観が改善される場合、撤去経費の一部を補助します。	50～70% 50万円	全市域

看板をつけるのに、規制はあるのですか？

Q3 広告物や看板を取り付けるとき、何か規制があるのですか？

A3 金沢市では魅力ある都市景観の創出を目指し、「都市景観形成基本計画」をつくりました。その中で、屋外広告物は景観を構成する重要な要素としあげられ、建物と同様、街並みの輪郭に影響をおよぼすものとしとらえています。広告物のデザインを工夫するとともに、建物との関連や大きさ、設置位置にも配慮する必要があります。

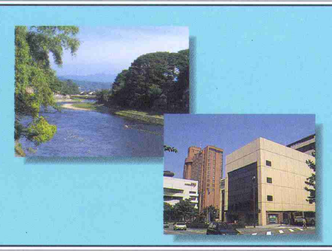
そこで金沢市では、高さや大きさなどの基準を盛り込んだ広告物のガイドラインをつくり、協力を求めています。広告物を設置される方、広告物を設計、デザインされる方には、事前に協議をお願いしています。街並みを美しく演出する広告物のデザインをともに考えていきたいと思っています。

金

沢を語る時、欠かせないのは「水」です。水の来らかたが金沢をすっぽり覆って、金沢の風土をつくっていると思います。その水の流れに不粋な橋を架け、しかも駐車場として利用している例が、金沢の顔ともいえる長町・香林坊一体に集中的に見られます。

経済の論理、個人の権利を主張していては優れた景観は生まれません。金沢という都市の個性を育むことができないように思います。四季を通じて流れる用水が美しく目に映る風景、さりげかですが私はこれを期待しています。

（金沢在住・三〇代・男性・会社員）



金

沢は坂道の多い街である。この坂道の多い街の街の景観を象徴しているし、私は好きである。名前は分からないが、材木町付近の坂、石引町付近の坂、そして車道の無い坂、特にお気に入りは桜の季節の寺町のW坂。

また、大乗寺坂からは都市・金沢のまちなみを見ることができる。天気の良い日は日本海、さらに海に浮かぶ船まで見える。金沢の坂を歩くと、金沢が分かるような気がする。

（金沢在住・二〇代・女性・学生）